

年度 2009 学期 後期	曜日・校時 木 2	必修選択 選択	単位数 2
授業科目/(英語名)	社会と歴史(コンピュータサイエンス史) Society and History (History of Computer Science)		
対象年次 1・2 年次	講義形態 講義	教室	
対象学生(クラス等) 全学部	科目分類 人文・社会科学科目		
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスパワー 担当教員: 柴田裕一郎 /Eメールアドレス: shibata@cis.nagasaki-u.ac.jp /研究室:工学部 1 号館 3F /TEL:095-819-2572 /オフィスパワー: 月曜1校時・メールによる質問はいつでも構わない			
担当教員(オムニバス科目等)			
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 授業のねらい: 現代社会に欠かせない存在であるコンピュータやネットワークは、いつ誰が何のために発明し、どのように発展してきたのか、コンピュータおよびネットワークと社会との関わりはどのように変化してきているのか、どのような可能性と問題点を含んでいるのか、などをコンピュータサイエンスの歴史を通じて概観する。 授業方法: 講義形式で行い適宜レポートを課す。 授業到達目標: コンピュータやネットワークに関する正しい技術的・歴史的認識を基にして、今後のコンピュータサイエンスの向かうべき方向性について自分の意見を説明できる。			
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 授業内容(概要): コンピュータの誕生はそれほど歴史を遡らないように思われるが、実は「世界初のコンピュータ」が何かをめぐってはさまざまな議論がある。前半ではこの問題を扱いながら、コンピュータの技術的・理論的發展の経緯を概観し、「コンピュータとは何か」について考える。後半では世界中のコンピュータを結ぶインターネットの發展の経緯について概観し、コンピュータやネットワークが現代社会にもたらす可能性と問題点について考える。 第1回 オリエンテーション 第2回 世界初のコンピュータとは? 第3回 古代の計算道具 第4回 バベッジとエイダ (1) 第5回 バベッジとエイダ (2) 第6回 フォンノイマンとENIAC (1) 第7回 フォンノイマンとENIAC (2) 第8回 チューリングマシンとコンピュータの理論限界 第9回 コンピュータは考えるか? 第10回 インターネットの誕生 第11回 Web2.0 第12回 ネット社会の光と影 第13回 現代暗号とセキュリティ 第14回 コンピュータサイエンスの未来 第15回 総括(試験を含む)			
キーワード			
教科書・教材・参考書	参考書(他にも適宜紹介する): 星野力 「誰がどうやってコンピュータを造ったのか」(共立出版 1995) 梅田望夫 「ウェブ進化論 - 本当の大変化はこれから始まる」(筑摩書房 2006)		
成績評価の方法・基準等	○定期試験 50%、レポート 50%		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ/学習・教育目標			
備考(準備学習等)			